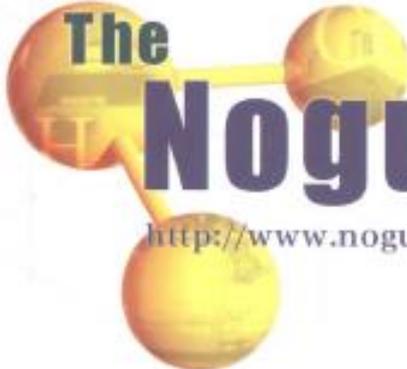




公益財団法人 野口研究所



**The**  
**Noguchi**  
<http://www.noguchi.or.jp> **Institute**





## 【ご挨拶】

公益財団法人 野口研究所は 1941 年に、旧日窒コンツェルンの創始者故野口遵が私財を投げうって設立した約 80 年の歴史をもつ研究所です。設立趣旨は「化学工業の振興を期するため、諸般の研究並びに調査を行うとともに広く重要な研究に対し援助をなし、なお研究者の養成、発明・考案の工業化にも力を注ぐ・・・」となっております。この精神を尊重しつつ、現在の社会ニーズにこたえるような基礎的研究、研究助成および人材育成を目的として事業を進めています。

現在は、糖鎖バイオロジーを研究領域としていますが、本分野の研究は、森林資源を利用する木材化学の研究がスタートになっています。そこで蓄積されたセルロースなどの知見をベースに糖類の合成研究・構造決定研究を続け、野口研究所固有の技術として蓄積してきました。21 世紀になり、バイオサイエンスの飛躍的な進展に伴い、糖鎖が生命システムに重要な役割を果たしていることが解明されつつあります。私たちはこの糖鎖バイオロジーの分野に研究の重点を移し、これまで蓄積してきた技術を生かした糖鎖機能の研究を通じてバイオ医薬品の開発や、病気の原因究明など医薬・医療への応用を目指しております。糖鎖の化学合成技術、糖鎖の機能解析技術、マススペクトル分析等の高度な解析技術を併せ持つことが私たちの強みです。

私たちは、公的機関や営利企業にはない自由度や独創性を生かして科学技術の進歩に貢献してゆく所存です。また、単独でその役割が果たせる時代ではなく、大学や研究機関、企業との共同研究にも積極的に取り組んでいます。どうか皆様の方からもお声をかけていただき、当研究所を活用していただきますようお願いいたします。

公益財団法人 野口研究所  
理事長 白井博史



野口研究所は化学技術振興事業を公益目的とする公益財団法人であり、学術研究機関として研究活動、教育活動ならびに研究助成活動を行っています。

現在の研究活動は、研究領域を糖鎖バイオロジーに設定し、これまで蓄積してきた技術を発展させたバイオ医薬品開発や病気原因究明など医薬および医療への応用を目指しています。

教育活動では、大学から学生を受け入れ卒業研究および修士論文研究の指導にあたりるとともに、職員が大学に出講しています。また、日本学術振興会外国人特別研究員など公的研究員制度の受入機関として、未来を担う人材の育成に努めています。

これらの活動をより効率的に実施するために外部機関との協力を積極的に推進しており、国内外の大学・企業との間で受託研究・共同研究の実施、研究員の交流を行っています。

また、2009年度より大学等の若手研究者の独創的研究を支援するため「野口遵研究助成金」を実施しております。2014年度からこの制度をより魅力あるものにすべく、あらたに「野口遵賞」を創設致しました。

組 織	職員数
	30名



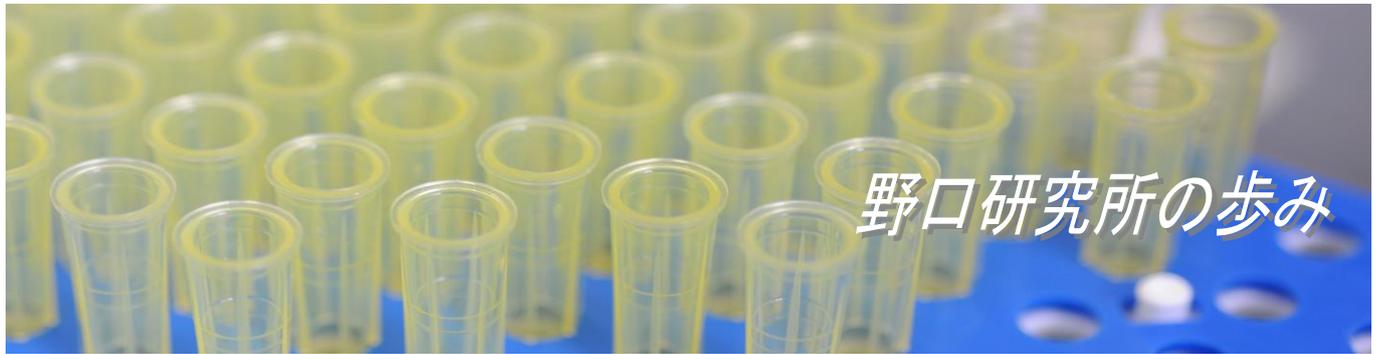
役 員	
-----	--

理事長	白井 博史*					
常務理事	杉 智和*					
理 事	三瓶 昭彦*	竹中 克	安武 幹智	松崎 修	大塚 信之	
	内田 学	向井 克典	橋爪 宗一郎	小宮山 眞		
評 議 員	岩澤 康裕	澤本 光男	小堀 秀毅	堀江 俊保	山田 敬三	高下 貞二
監 事	中尾 正文	大森 光治	山口 正雄			

\*は常勤。その他は非常勤。

名誉顧問	木幡 陽	(東京大学 名誉教授)
学術顧問	遠藤玉夫	(東京都健康長寿医療センター研究所 シニアフェロー)
	古川 清	(長岡技術大学 名誉教授)
	深瀬浩一	(大阪大学大学院理学研究科 教授)
	柴崎一郎	(元豊橋技術科学大学 特命教授)

2022年7月1日現在



## 野口研究所の歩み

- 昭和 16 年 (1941) 日本窒素肥料株式会社社長 野口遵が、私財 2,500 万円を拠出して創設。文部大臣より民法第 34 条に基づき財団法人設立の許可を受ける。  
設立年月日 昭和 16 年 2 月 10 日。  
研究所を横浜、延岡、興南に開設。
- 昭和 21 年 (1946) 各研究所を東京板橋（現所在地）に移転。
- 昭和 23 年 (1948) 調査部を東京神田に新設（主として水力資源と森林資源の活用に関する調査を行い昭和 30 年まで継続）。
- 昭和 31 年 (1956) 基本財産拡充のため募金（83 社より約 3 億円の賛助を受ける）。
- 昭和 37 年 (1962) 野口情報センターを開設。
- 昭和 44 年 (1969) 同情報センターを調査部として発展改組。
- 昭和 60 年 (1985) 投資有価証券のうち株式を処分し、国債・地方債・金融債・貸付信託等に転換、基本財産および通常財産の拡充を図る。
- 平成 3 年 (1991) 創立 50 周年。
- 平成 6 年 (1994) 調査部を廃止し、調査事業を縮小。
- 平成 13 年 (2001) 創立 60 周年。
- 平成 21 年 (2009) 野口遵研究助成金制度を創設。
- 平成 22 年 (2010) 公益財団法人に移行。
- 平成 23 年 (2011) 創立 70 周年。
- 平成 26 年 (2014) 野口遵研究助成金制度に野口遵賞を新設。
- 平成 27 年 (2015) 糖鎖リモデリング技術に目途。新研究棟建設着手。
- 平成 28 年 (2016) 創立 75 周年。8 月、新研究棟完成。
- 令和 1 年 (2019) 野口遵研究助成金 10 周年記念講演会を開催。
- 令和 2 年 (2020) ナノ・メソポーラス材料研究室、機能性材料研究室を閉鎖。
- 令和 3 年 (2021) 創立 80 周年。



## 創設者 野口遵について



野口遵翁は、一介の技術者から身を起し旧日窒コンツェルンを築き上げた起業家として知られています。米国のTVA計画（ルーズベルト大統領が着手したテネシー河流域開発）に匹敵する総発電力 200 万 kW の水力発電所群と、それを基幹とする化学コンビナート群の建設にほぼ独力で成功した業績は、世界に「奇跡」と紹介されました。また、全私財 3,000 万円（現在の価値で約 300 億円）を「野口研究所」の創設と「朝鮮奨学会」に寄付しました。こうした行いは、翁の異色かつ偉大な人物像の象徴として、いつまでも私たちの記憶にとどまることでしょう。

### 略 歴

- |               |  |
|---------------|--|
| 明治 6年 (1873)  | 7月26日金沢市で生まれる。   |
| 明治 29年 (1896) | 東京帝国大学電気工学科を卒業。郡山電燈の技師長として赴任。  |
| 明治 31年 (1898) | シーメンスの東京支社に入社。この間カーバイドの研究を続ける。   |
| 明治 36年 (1903) | 三居沢（仙台市）で我が国最初のカーバイドを生産。   |
| 明治 39年 (1906) | 曾木電気を創立。鹿児島県の曾木滝を利用して水力発電を起こす。   |
| 明治 41年 (1908) | 日本カーバイド商会を設立し水俣に工場を建設。<br>曾木電気、日本カーバイド商会を合併して社名を日本窒素肥料（現JNC）と改称し、石灰窒素、硫酸の製造を開始。  |
| 大正 10年 (1921) | カザレー（伊）のアンモニア合成の特許を買収して延岡に世界最初のカザレー式アンモニア合成工場を建設。                                |
| 大正 11年 (1922) | 旭絹織を設立。  |
| 大正 12年 (1923) | 延岡工場を新設、硫酸を生産。   |
| 大正 13年 (1924) | 朝鮮への進出を決定。   |
| 大正 14年 (1925) | 北朝鮮赴戦江で水力発電の開発(20万kW)に着手。<br>続いて長津江(33万kW)、虚川江(34万kW)を完成、鴨緑江本流には水豊発電所(70万kW)を建設。 |
| 昭和 4年 (1929)  | ドイツ・ベンベルグ人絹の特許をもとに日本ベンベルグ絹絲（現旭化成）を設立。  |
| 昭和 16年 (1941) | 全財産 3,000 万円を寄付し、2,500 万円で野口研究所を設立。500 万円を朝鮮奨学会に寄付。                              |
| 昭和 17年 (1942) | 勲一等瑞宝章を受章。   |
| 昭和 19年 (1944) | 1月15日逝去。享年 72 歳。   |